

# Moshi-mosu

もっと知れば、もっと好きになる！長岡京市の歴史・文化財

Vol. 11  
Take Free



秋と言えば、芸術や読書、グルメ、スポーツなど、いろいろな楽しみがある。そして、秋は祭りの季節。長岡京市でも、毎年ガラシャ祭が盛大に開催される。お祭りのムードを高めるのが、太鼓。ドンドンドンと響く太鼓の音色を聴くと、私たちの体内の細胞もざわめいていると感じる。喜びも哀しみも全部包んで、『今ここに生きている』そんな気持ちを味わえるハレの瞬間だ。遠くからはじまりの太鼓の音色が聴こえてきた。駆け足でその音を追いかけた先であう景色は、きっとこの先も忘れることはない。歴史・文化薫るふるさとの景色。そんな身近な景色に、全国からの注目が集まってきている。

かしく暮らしっく  
長岡京

Speaking of autumn, there is the various pleasure including art and reading, a gourmet, sports. And autumn is a season of the festivals. In Nagaokakyo-city, "gracia-festival" is held every year. It is a drumbeat to be able to raise the festival mood. The drumbeat excites our internal cell. It is a moment to be able to be pleased with living here now. We will not forget the beautiful scenery which we watched while hearing a drumbeat. About Nagaokakyo-city full the history, interested people increase.



# 細川藤孝 勝龍寺城主



## 長岡京市にゆかりの深い細川藤孝（幽斎）！

室町幕府に仕えた三淵晴員の子で、同じく幕府に仕える細川晴広の養子となりました。將軍足利義輝に仕え、義輝が三好・松永氏に暗殺されると、その弟・義昭に仕えて越前（福井県）などにいました。永禄11年（1568）、織田信長が義昭を奉じて上洛するとそれに従い、しだいに信長の家臣になっていきます。元龜2年（1571）には、信長に命じられて勝龍寺城を近世的な城郭に造り替えました。元龜4年（1573）に信長から桂川以西の地を与えられ、「長

岡」の姓を名乗ります。文人としても著名で、天正2年（1574）には勝龍寺城で古今和歌集の解釈の奥義である「古今伝授」を受けています。天正8年（1580）、丹後に国替えとなり勝龍寺城を去りますが、その後も同城を利用することがあったようです。天正14年（1586）には豊臣秀吉から勝龍寺・神足を含む三千石を与えられるなど、長岡京市と深いつながりがありました。



## 盟友！？明智光秀と細川藤孝

明智光秀は、美濃（岐阜県）土岐氏の支族で明智庄の出身と言われています。越前（福井県）の朝倉義景に仕えていた時、上洛の機会をうかがっていた足利義昭と家臣の細川藤孝に出会います。その後、義昭と織田信長の両属の家臣となり、永禄11年（1568）の義昭の上洛に加わりました。元龜2年（1571）近江国滋賀郡（滋賀県）を与えられ、坂本城（大津市）を築城。天正6年（1578）、信長

のすすめにより、藤孝の嫡子・忠興のもとに光秀の娘・玉が嫁ぎ、勝龍寺城で幸せな新婚生活を過ごしたと言われています。天正7年（1579）には丹波を平定し、藤孝と協力して丹後国も平定しました。天正10年（1582）、本能寺に宿泊する信長を急襲し、自刃させました（「本能寺の変」）。姻戚関係にある藤孝と忠興の協力を得られず、山崎合戦で羽柴秀吉に敗れました。

2020年  
NHK  
大河ドラマ

## 長岡京市ゆかりの戦国武将「明智光秀」が主役の『麒麟がくる』放映決定！



細川藤孝の新たな古文書が見つかる！勝龍寺城公園（管理棟2階）でレプリカ公開中！

昨年6月、これまで研究者の間でも知られていなかった一通の古文書が発見されました。これは、勝龍寺城の城主であった細川藤孝が出したもので、関連文書の写しが1点知られるばかりの新出史料でした。未だ不明な点も多い藤孝の乙訓統治を具体的に物語る、希少で学術的価値の高い歴史資料であることがわかりました。

この文書は9月4日付で、年紀はないものの、おそらく元龜3年(1572)9月に発給されたと考えられています。宛先と文中の「貴寺」は、東寺である可能性が指摘されています。その文面は、『織田信長から勝龍寺城米を

「諸入組」地に賦課するよう命令があったが、貴寺は特別な寺院で、明智光秀・里村紹巴の要請もあったため、上桂・朝原にある貴寺領地については免除、これまで通り収納してよい』といったものです。藤孝の管轄地であった乙訓地域に「諸入組」地があったこと、にもかかわらず信長が一円に臨時課役を賦課したこと、しかし在地支配のなかで、各領主の個別交渉によって無効となる場合があったこと、藤孝・光秀・紹巴といった個人的な関係がその採否を左右したことがわかる、興味深い内容となっています。

ふおつふおつふおつ、幽齋です。去年見つかってしまいましたわたしの書状——。若かりし、藤孝だった頃を振り返ってご説明いたしましょう！

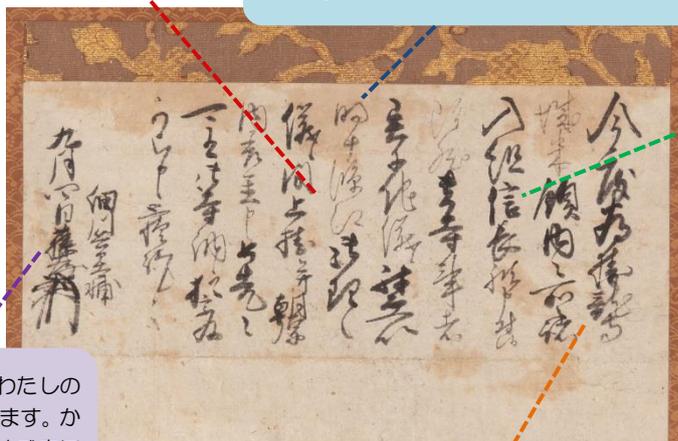


細川幽齋像（部分）  
天授庵提供

ここに「臨江」とあります。これは、当時連歌師の第一人者だった里村紹巴さんのことで、永禄8年(1565)から「臨江斎」と号していました。わたしもいささか連歌を嗜んでおりました。紹巴さんにはたびたび同座してもらい、勝龍寺城にも足を運んでもらいました。光秀さんが、「時は今……」と本能寺の変の決意を込めたとされる「愛宕百韻」にも同座されていましたね。

ここに「明十」とあります。これは、明智十兵衛尉を省略したもので、明智光秀さんのことです。このころの光秀さんは、織田信長さまのもと比叡山の焼き討ちで功を立て、近江国滋賀郡を与えられて坂本城の普請に精を出していました。また、それまで両属する状態であった足利義昭さまを見限られたのもこのころのようです。義昭さまを将軍にしようと、共に戦国乱世に旗を立て、いよいよ大名にと意気込んでいましたが、まさかこの10年後に本能寺の変を起こされ、山崎の合戦、帰らぬ人になるとは…、よもや思いもしていませんでした。

言わずと知れた、織田信長さまのことです。わたしは、そもそも將軍足利義昭さまに仕えており、信長さまとの間を取り次いでいました。このころ、お二人の関係が悪化し、武田信玄をはじめ敵対勢力に囲まれて、厳しい戦いを強いられていました。



ここには、差出人であるわたしの名前を、自分で書いています。かつては、身分の高い公家や武家ほど、たくさん名前を持っていました。氏名・家名(苗字)・通称名(官途名)・実名などです。わたしの場合はこの時、源・細川・兵部大輔・藤孝、でした。細川兵部大輔から改行して、「藤孝」とサインである花押を署名しています。

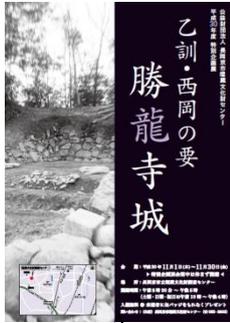
ここには「勝龍寺城」とあります。応仁の乱以来、京都防衛の要地となり、前年の元龜2年(1571)に織田信長さまの命令で、わたしが“城”として普請したものです。翌年の元龜4年(1573)、桂川以西の乙訓地域を信長さまから与えられました。それ以降、わたしは「細川」から「長岡」へと家名(苗字)を変え、細川家が丹後・九州へ移っても、終生名乗りました。わたしにとって、はじめての領地であった当地、城主デビューした勝龍寺城は、「殿主」で公家三条西実枝さんから古今伝授を受けたり、従兄弟の公家吉田兼見さんがたびたび遊びに来られて囲碁や密談に興じたり、息子忠興と明智光秀さんの娘玉さんとの婚礼があったりと、いろいろと思入れのある場所ですね。

参加しよう！

## Event イベント情報。



勝龍寺城跡が熱い！？



くわしくは、埋蔵文化財センターのホームページをご覧ください。

### 長岡京市埋蔵文化財センター特別企画展

## 『乙訓・西岡の要～勝龍寺城～』開催中！

2020年オリンピックイヤーのNHK大河ドラマに明智光秀を主人公とする「麒麟がくる」の放映が決まった今、本市の勝龍寺城跡も大きな注目を集めています。今回の特別企画展では、勝龍寺城の前史や寺・集落との関係、織田期城郭としての特徴などを分かりやすく展示します。そして、戦国時代の乙訓・西岡地域において最も重要な拠点であった勝龍寺城の歴史的な意義や、現在まで守り伝えられ、そして次代へ受け継がれるべき意味などを紹介します。

- 期間 平成30年11月30日(金)まで
- 開館日 平日(月～金曜日): 午前8時30分～午後5時  
土曜・日曜・祝日: 午前10時～午後4時
- 場所 長岡京市埋蔵文化財調査センター エントランスホール  
(長岡京市奥海印寺東条10番地の1/阪急バス「明神前」下車徒歩約2分)
- 問い合わせ 公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター ☎075-955-3622

申込不要

観覧無料



江戸時代の乙訓を知る！

長岡京市歴史講演会

## 江戸時代の乙訓文化 ～神職・商家と文人たち～

今から約200年前の江戸時代中期に、甲斐守ゆきなど、乙訓の歴史を語り継ぎ、そして乙訓の文化を築きあげた人々を、追って紹介します。

- 講師 向日市文化資料館 館長 玉城 玲子氏
- 日時 平成30年12月2日(日) 13時30分～15時30分
- 会場 長岡京市立産業文化会館 1階 大会議室



今から約200年前の乙訓の文化サロンのようすを活躍した人々をとおして紹介！

### ～長岡京市歴史講演会～

## 『江戸時代の乙訓文化～神職・商家と文人たち～』

- 日時 平成30年12月2日(日) 午後1時30分～3時30分
- 場所 長岡京市立産業文化会館 1階 大会議室
- 講師 向日市文化資料館 館長 玉城 玲子さん
- 主催 NPO法人長岡京市ふるさとガイドの会
- 共催 長岡京市教育委員会
- 後援 長岡京市観光協会
- 問い合わせ NPO法人長岡京市ふるさとガイドの会の高橋さん ☎075-955-8810  
長岡京市教育委員会生涯学習課 ☎075-954-3557

申込不要

先着 100名

資料代 300円

### 第国宮(おとくにのみや)遷都1500年記念事業

[2018年7月6日] ID:7303

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます

第国宮遷都1500年を迎えます



ことしは、「第国宮遷都 1500年」！  
そして、「長岡京市歴史再発見の年」！

記念イベント「第国宮遷都1500年記念事業」をはじめ、歴史再発見のための情報を長岡京市のホームページで発信しています。また、「長岡京市歴史日めくり」も、好評連載中(ほぼ毎週更新)です。いよいよ記念事業も残りわずか。ぜひ、ご覧ください。